

◇ 研修目標

耳鼻咽喉科医としての診断と治療に関する専門的知識および技能を修得する。

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医の資格を得るために必要な知識および臨床能力を修得する。

◇ 対象者

卒後臨床研修（２年間）を修了し、耳鼻咽喉科医師を目指す者、および日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医の取得を目指す者。

◇ 研修方法

以下のとおり３年間の耳鼻咽喉科研修コースを設定する。

1. 指導医のもとで、耳鼻咽喉科外来および病棟診療における専門的検査・診断・治療を行う。また指導医のもとで耳鼻咽喉科手術の手技・術前術後処置・管理を行う。
2. 日本耳鼻咽喉科学会会員となり、学会に関連する学術集会・講習会などに積極的に参加し、知識・技能の習得に努める。

なお、当コースは日本耳鼻咽喉科学会認定専門医の受験資格に必要な研修カリキュラムに準拠している。

◇ 研修項目

以下の検査・診断・治療（手術含む）を行う。

1. 主な疾患

- (1) 耳領域：外耳疾患（炎症、外傷・異物、耳垢栓塞、奇形）、中耳炎（滲出性、急性、慢性、真珠腫性）、中耳疾患（耳硬化症、外傷、耳小骨連鎖離断）、内耳障害・感音難聴（急性・突発性、遺伝性、感染性、外傷性、老人性、薬剤性）、側頭骨外傷、めまい（メニエール病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症）、顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群、外傷性）、小児難聴、中耳・外耳腫瘍など
- (2) 鼻・副鼻腔領域：炎症（急性・慢性副鼻腔炎）、アレルギー性鼻炎、鼻出血、のう胞性疾患、腫瘍（Wegener 肉芽腫、悪性腫瘍）など
- (3) 口腔領域：炎症、外傷、腫瘍、唾液腺疾患（耳下腺・顎下腺・舌下腺）など
- (4) 咽頭・喉頭・気管領域：異物、炎症（急性・慢性）、ポリープ、腫瘍（咽頭癌、喉頭癌）、上気道狭窄（先天性、外傷、喉頭蓋炎、ジフテリア）、反回神経麻痺、睡眠時無呼吸症候群など
- (5) 頭頸部領域：甲状腺疾患（腫瘍、のう胞、機能異常）、リンパ節腫脹など

2. 検査

- (1) 耳領域：耳鏡、中耳ファイバー・顕微鏡検査、標準純音聴力検査、インピーダンスオーディオメトリー、語音聴力検査、平衡機能検査、内耳機能検査（自記オーディオメトリー）、眼振計、顔面神経機能検査など
- (2) 鼻・副鼻腔領域：鼻鏡、鼻アレルギー検査、鼻咽腔ファイバースコープなど
- (3) 口腔領域：味覚検査、唾液分泌検査など
- (4) 咽頭・喉頭・気管領域：喉頭ファイバースコープ、喉頭鏡検査、ポリソノムグラフィー、アプノモニターなど
- (5) 頭頸部領域：触診、生検など
- (6) その他：画像診断（単純X線、CT、MRI、エコー、RI）、細胞診・病理組織検査（採取）、悪性腫瘍のTNM診断など

3. 治療・手術

- (1) 耳領域：異物摘出、耳垢除去、鼓膜切開、鼓膜チューブ挿入、耳ろう孔摘出、鼓膜形成、鼓室形成など
- (2) 鼻・副鼻腔領域：異物摘出、鼻出血止血、鼻骨骨折整復、上顎洞穿刺洗浄、鼻中隔矯正、鼻甲介切除、副鼻腔根本術など
- (3) 口腔領域：がま腫開放、唾石摘出、顎下腺摘出、耳下腺切除、口蓋形成など
- (4) 咽頭・喉頭・気管領域：アデノイド切除、口蓋扁桃摘出、気管切開、喉頭腫瘍（声帯ポリープ）摘出など
- (5) 頭頸部領域：甲状腺切除、喉頭全摘出、頸部郭清、頭頸部再建など

◇ 専門医の取得

当院は日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設であり、卒後2年間の臨床研修終了後、①当院耳鼻咽喉科にて4年以上、または②当院耳鼻咽喉科にて3年以上、その他施設にて耳鼻咽喉科医として1年以上の合計4年以上、の耳鼻咽喉科研修を修了した場合、日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医試験の受験資格を得ることができる（3年間以上、日本耳鼻咽喉科学会の正会員であることが必要である）。